

編集後記

通巻第6号の編集を終えて、今回も力作をお寄せいただいたことに感謝します。特に、本学園関係の非常勤教員の皆様の投稿も多く、色々な研究活動の発展を感じます。大学などに比較して担当コマ数が多い専門学校の教員にとって、論文や研究ノートを作成するのはかなり大変なことです。しかし、せめて年に1本くらいは自分の専門分野を深掘りする研究や、最新の動向のサーベイを研究ノートにまとめるなどの努力がされていないと、学生にとって発見の多い授業はできません。

また、世上ではポストドクの問題（博士号を取っても就職口が少ない。待遇が見合わない。）なども指摘され、研究に対する価値が下がっているようです。その結果、様々な社会現象を科学的に分析して考えながら合理的な発言したりできる人が減っているように思います。中には、合理的に考えれば、明らかにおかしい内容を、しかるべき立場の方が話したりして、それを恥ずかしいことだとも思わないで居直る様子は、科学者の目から見れば落胆の極みです。なぜならば、その非合理の世界の延長線上にあるのは、国際的敗北であり、ある意味では滅びの世界だと言われているからです。

その意味で、国際的な交流の仕事をしていると、たくさんの誤解や行き違いにであいますが、それでも前向きに科学的合理的に進もうという各国の意欲を感じます。国際的に活躍している人は、研究者や教員ではなくても、修士号を持っているのは普通、博士号を持っている人も少なくありません。

非合理の世界、非科学的展開の最たるものの一つは、「児童虐待」です。自分達の人生の未来（老後）を支えてくれる児童を虐待するなどということは、合理的科学的思考からは出てきません。今回は、この問題に関して、あなたはクリニック医師であり、オリブ山病院児童思春期外来の滝川一廣先生にご執筆いただきました。滝川先生は敬心学園や職業教育研究開発センターとは特段の関わりがないのですが、編集委員会のメンバーのたつての推薦をお快く受け入れて頂き、素晴らしい巻頭論文をご執筆いただきました。心から感謝です。

なお、今号では、第16回職業教育研究集会の報告も掲載されています。今回は、職業教育研究集会と名前を変えてから第1回目の研究集会で、二つの講演や新たな試みに挑戦した研究集会の様子を紹介しています。今後の専門学校教育や介護の問題に示唆に富む国際的な内容になっていますので、ご参照頂き、次回の研究集会への発表の検討材料にして頂ければ幸いです。

（編集委員長 川廷 宗之）

研究計画の概要を立案し、先行調査・事例を確認、必要な調査、仮設だて…様々な過程の上、論文の形式に整え、推敲を重ねられ、そして投稿していただく論文。内容によっては、研究にあたっての倫理委員会を経ていることも前提です。著者の先生方の多くの時間とおもいも込められた論文の発表、掲載先として、敬心・研究ジャーナルを選択いただいたこと、嬉しく思っています。今号も論文推敲の過程で、次号以降に掲載を延期された論文も複数ございましたが、投稿いただいた原稿のスムーズな進行・掲載に向けて、様々なご助言・ご教示をいただいた編集委員、査読委員の先生方、そして研究倫理専門委員の先生方など多くのお力添えも加わり、第3巻第2号を皆さまにお届けすることができました。改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

今号は度重なる台風の時期に査読をお願いするケースも多く、災害が発生する悪天候の中、査読結果と共に執筆者へ向けた丁寧なご教示をいただいた先生をはじめ、査読委員の先生方から本当に多くのご助言・ご教示をいただき、著者の先生方からも感謝の言葉をいただいております。

弊ジャーナルは分野を特定しておりませんので、様々な分野の投稿をいただけます。査読論文に限らず、皆さまからの多くのご投稿をお待ちしております。先日編集委員会により、次号から査読の無い原稿の投稿締め切り日延長を決定いたしました。（本誌巻末の投稿要領・チェックシートと共にご確認ください。）ぜひ執筆・投稿をくださいます様、お待ちしております。

（編集事務局担当 杉山 真理）

— 「敬心・研究ジャーナル」学校法人敬心学園 編集委員会（2019. 10. 1 現在） —

委員長 川廷 宗之 （職業教育研究開発センター、大妻女子大学名誉教授）
委員 行成裕一郎、松永 繁（日本福祉教育専門学校）
有本 邦洋、阿部 英人（日本リハビリテーション専門学校）
町田 志樹、浜田 智哉（臨床福祉専門学校）
木下 美聡、天野 陽介（日本医学柔整鍼灸専門学校）
鈴木八重子、水引 貴子（日本児童教育専門学校）
事務局 杉山 真理、藤井 日向（職業教育研究開発センター）

〈執筆者連絡先一覧〉

〈児童虐待〉は増えているのか

あなはクリニック

オリブ山病院 児童思春期外来

児童心理治療施設 ノアズ・ガーデン 滝川 一廣

〒900-0013 沖縄県那覇市牧志2-23-9 SHINKA 牧志ビル

3F (あなはクリニック)

「10の姿」に込められた能力観の私製解説書による曲解

— 実践例と能力の対応化による変質 —

郡山女子大学短期大学部 安部 高太郎

〒963-8503 福島県郡山市開成3-25-2

E-mail: hkkateiron@gmail.com

保育士養成課程における施設実習と福祉・心理科目の体系的学び

— 教科目連携の発案 —

学校法人敬心学園 日本児童教育専門学校 東郷 結香

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-15

E-mail: ytogo@jje.ac.jp

家族システム = SALAD モデルに関する家族心理学的研究

— 4種類の家族スタイルと家族PM尺度理論との関連性について —

学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター 客員研究員

小野寺 哲夫

E-mail: friendly@voice.ocn.ne.jp

成年後見人がついた国賠法上の勝訴例

— 捜査の違法性を争った神戸地裁平成31年3月13日判決 —

日本社会事業大学社会福祉学部 梶原 洋生

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30

保育者養成課程科目としての日本国憲法(2)

— 統治論を中心に —

大阪府立大学 吉田 直哉

〒599-8531 堺市中区学園町1-1

大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類

E-mail: naoya_liberty@yahoo.co.jp

即時効果を特色とした介護予防運動プログラムの有効性

— 腰編プログラム実施者の数値評価スケール (Numerical Rating Scale) に焦点をあてて (その2) —

早稲田大学 非常勤講師 包國 友幸

「施設実習での指導に関する意識調査」

— 実習指導者から見た実習生の課題 —

学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 松永 繁

〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-15

E-mail: matsunaga@nipku.ac.jp

ツボの位置を決定する際の1寸は何センチに相当するかの調査

— 現代人の身体計測値を基準として —

学校法人敬心学園 日本医学柔整鍼灸専門学校 稲垣 元

〒169-0075 新宿区高田馬場1-18-18

E-mail: inagaki@jusei-sinkyu.com

協働型園内研修論が前提とする保育者の専門性観

— 子ども理解と人間関係を主題化することの問題点 —

八戸学院大学短期大学部 鈴木 康弘

E-mail: yasumono@msn.com

インドシナ難民に対するわが国の対応と公的および民間支援の実際

— 1970年代から1990年代の変遷を中心に —

学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校 小泉 浩一

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-16-3

E-mail: koizumi@nipku.ac.jp